

6 国営土地改良調査管理事務所と連携した取組み（なし生産者）

- 福井県拠点と西北陸土地改良調査管理事務所が連携し、それぞれの得意分野を活かして現場に踏み込み、課題解決の一方策として国営事業の活用も視野に地域農業の発展を目指す。

○ きっかけ

国営九頭竜川下流地区の事業が平成30年度に完工。一方、過去に整備された施設の老朽化が目立ち、国営水利システムを再編する事業の具体的な検討を求める声が聞こえてくるようになった。

○ 取組の概要

西北陸土地改良調査管理事務所では、地域農業の将来像を踏まえた新たな事業化の可能性を探る事前調査を実施。

事前調査を踏まえ、福井県拠点に対し、現場での国営事業への機運の高揚や用水利用に関する課題等把握の相談があり、福井県拠点における地元との繋がりを活かし、関係機関と地元のなし生産者による現地に密着した懇談会を提案し開催した。



令和2年10月28日 坂井市内での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 農業の課題解決の一方策として事業の実施に向けた理解と機運が認められた。
- ・ なし販売では収入を考慮し、直売とJA出荷を調整している。
- ・ なしの全体的な需要は若干低下しているが、なし農家は需要に応じて植栽している。
- ・ なし農家の高齢化による廃業があるが、生産拡大のための賃貸可能件数が少なく賃料も高額である。
- ・ なし園として継続するには、辞める場合のルールや農家間のコミュニケーションと関係機関の連携が必要。
- ・ 園芸ではハウスリースがあるが、なしでもハウスリースを要望。
- ・ 小規模な改植や棚補修への支援を要望。